

児童発達支援事業所における自己評価結果(公表)

公表:平成31年1月25日

事業所名 多機能型事業所ホープみさかえ

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○		・利用する方が多いときはクラスを分けて療育を行っている。	・クラス分けで不便のないようにしたい。
	2	職員の配置数は適切である	○		・人員基準は満たしている。また、利用人数等に対して職員を加配するなどしている。	・よりよい療育を行うため職員を増員したい。
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障がい者の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	○		・開放的で過ごしやすい空間になっている。情報伝達においては集中できる環境配慮や特性に応じて伝達方法を工夫している。	・テラスと園庭に段差があるため改善を図りたい。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	○		・活動後の清掃を徹底することや活動に集中できるようにする取り組みが出来るよう必要以上の物を置かないようにしている。	
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	○		・全員が参加できるよう会議の時間を調整している。	
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている		○		・本年度より実施
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している		○		・本年度より実施
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		○		・外部評価においては今後、検討をする。
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		・施設内外の研修に参加しやすい環境である。	
適切な支援の提供	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	○		・送迎時に保護者との様子を聞き取り、幼稚園並びに保育園の様子も情報交換したうえで計画している。	
	11	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○		・アセスメントシートを活用し、実際の状況を確認している。また、遠城寺式・乳幼児分析的発達検査を取り入れている。	
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	○		・職員間で支援のあり方に協議し、個々の支援方法を設置している。	
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	○		・計画に沿った支援に取り組んでいる。	
	14	活動プログラムの立案をチームで行っている	○		・職員の見解を会議で協議できるように取り組んでいる。	
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○		・教材等を参考に様々な活動を行っている。	
	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	○		・偏りがないように個別及び集団の活動を組み合わせている。	
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○		・来園前に確認を行っている。	
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○		・職員間で気づいたことを話し、情報の共有や次の支援に活かされるようにしている。	
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○		・支援日誌は必ず作成し、特に必要なことを細かく記録し、職員間で共有できるようにしている。	
	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	○		・随時、行っている。	

関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○		・児童発達支援管理責任者が参画している。	
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	○		・必要性を感じた際にその都度連携している。	
	23	〈医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合〉地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	○		・定期的に関連機関と情報交換を行っている。	
	24	〈医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合〉子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	○		・緊急時の連絡体制は整っている。	
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○		・定期的に情報交換の場を設け共有している。	
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○		・行政が作成した移行支援シートや相互に情報提供を行い、共通理解を深めている。	
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○		・市の自立支援協議会に参加し、助言や研修を受けている。	
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある		○		・事業所を利用する大多数が幼稚園もしくは保育園と療育を併用している。今後、園外療育等で会った場合、交流を図らせたい。
	29	〈自立支援〉協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	○		・市の自立支援協議会子ども部会に参加し、連携を図っている。	
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○		・利用時は必ず連絡帳等で情報を提供し、相互理解できるようにしている。	
	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている		○		・現在、家族支援を担ううえで研修に参加しているため、今後、研修の結果を活かしたい。
保護者への説明責任等	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○		・利用契約時に説明をし、同意を得ている。	
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	○		・説明したうえで、個別支援計画の同意を得ている。	
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○		・送迎時や連絡帳等で相談があった場合は助言を行っている。	
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している		○	・親子活動を取り入れる中で話をする場を提供している。	・今後は親子活動の機会や保護者会も検討する。
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	○		・迅速に対応できるように心がけている。	
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○		・連絡ノートで活動の記録等(写真を添付する時もある。)を伝えるだけでなく、月1回のクラスだよりを発行し、情報を発信している。	
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	○		・細心の注意を払っている。	
	39	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○		・具体的な話をすることでイメージを持ちやすくするなどの配慮をしている。	
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	○		・夏祭り、クリスマス会等を開催している。	・事業の理解を深めてもらうために事業所のアピールに力を入れたい。

非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	○		・マニュアルの作成等はされている。	・発生想定訓練が出来ていないところもあることため、今後は定期的に実施する。
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○			・訓練が出来ていない月があった。
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	○		・保護者からの情報提供により確認している。	
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○		・保護者からの情報提供により対応している。	
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○		・施設内研修等で事例の共有や対応策を検討している。	
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○		・施設内外研修等の機会を設けている。また研修に参加できる機会の確保を行っている。	
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	○		・身体拘束を行わないよう、様々な対応で解決策を探っている。	